

問1 中国の黄河流域を中心とした華北地方では、気候や地形条件に合わせて特定の農作物の栽培が盛んです。この地域の食文化の特徴として最も適切なものはどれですか。（2021年 大分県公立入試 類似）

- 乾燥した気候に適した小麦の栽培が盛んで、水餃子などの粉もの料理や豚肉・羊肉を用いた料理がよく食べられる。
- 温暖湿潤な気候を利用した稲作が盛んで、米を主食とし、豊富に獲れる海産物を用いたあっさりした料理が中心である。
- 内陸の盆地特有の湿気を飛ばすために、唐辛子や山椒などの香辛料を多用した、麻婆豆腐に代表される辛い料理が発達している。
- 熱帯に近い気候で二期作が行われており、米を原料とした麺類や、飲茶と呼ばれる小規模な食事のスタイルが一般的である。

問2 南アジアに位置するインドでは、近年、ソフトウェア開発などの情報技術（IT）産業が目覚ましい発展を遂げています。この背景にある社会的・歴史的な要因について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 山形県公立入試 類似）

- IT産業は比較的新しい産業であるため、カースト制度などの伝統的な身分制度による職業選択の制約を直接受けにくかった。
- 政府がカースト制度の身分ごとに従事できるIT分野を細かく指定したことで、効率的な分業体制が確立された。
- ASEAN（東南アジア諸国連合）への加盟を機に、身分制度に関係なく自由に就職できる労働環境が周辺諸国から導入された。
- 古くからの身分制度を完全に廃止し、全人口が平等に高度な情報教育を受けるための法整備が19世紀中に完了していた。

問3 農作物の生産量においてアジア諸国が上位を占めている「米」の栽培について、その背景や特徴を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄公立入試 類似）

- 単位面積あたりの生産力が高く、人口が多い地域の主食として適している。
- 夏の降水量が少ない乾燥した地域での大規模な栽培に適している。
- 生産されたものの大部分が、家畜の飼料として先進国へ輸出される。
- 生産量の大部分が国際的な貿易に回される、代表的な工芸作物である。

問4 中国では1950年代以降、人口が急激に増加し、食料供給や生活水準の向上を妨げる要因となりました。この人口爆発を抑制するため、1979年頃から一組の夫婦に子どもを一人に限ることを基本として導入された政策は何ですか。（2017年 群馬県公立入試 類似）

- 一人っ子政策
- 人口分散政策
- 家族計画法
- 多子化奨励政策

問5 近年、日系企業の拠点数の増加率が中国と比較してベトナムで著しく高くなっている背景として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

- 中国での人件費の上昇を受け、リスク分散のために生産拠点を他の国へも広げる動きが強まったため
- ベトナムにおいて少子高齢化が進み、熟練した労働力が余るようになったため
- ASEAN（東南アジア諸国連合）が解散し、各国が独自に日本との関税を撤廃したため
- 中国国内の市場が縮小し、日系企業の拠点がすべて東南アジアへ移転したため

問6 日本と西アジアの特定の国との貿易について、その国の日本への輸出総額が約6兆円にのぼり、品目別では原油が83.4パーセント、揮発油が8.1パーセント、液化天然ガスが4.2パーセントを占めている場合、この貿易相手国として最も適切な国名はどれですか。（2025年 鹿児島公立入試 類似）

- アラブ首長国連邦
- サウジアラビア
- トルコ
- イスラエル

問7 南アジアの自然環境と農業について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。（2024年 宮城県公立入試 類似）

- 夏にインド洋から陸地へ向かって吹く季節風が雨をもたらし、ガンジス川流域で稲作が行われる。
- 夏にヒマラヤ山脈から海へ向かって吹く季節風が雨をもたらし、ガンジス川流域で小麦の栽培が行われる。
- 冬にインド洋から陸地へ向かって吹く季節風が乾燥をもたらし、インダス川流域で稲作が行われる。
- 冬にヒマラヤ山脈から海へ向かって吹く季節風が乾燥をもたらすし、ガンジス川流域で綿花の栽培が行われる。

問8 南アジアに位置するある国は、2020年時点の国内総生産（GDP）が約2兆6647億ドルに達し、世界的な経済大国としての地位を確立しています。1980年代から2020年にかけて急速な経済成長を遂げた一方で、1人あたりの国内総生産は約1931ドルという水準にあります。この統計に該当する国として正しいものはどれですか。（2024年 富山公立入試 類似）

- インド
- ブラジル
- コートジボワール
- サウジアラビア

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 乾燥した気候に適した小麦の栽培が盛んで、水餃子などの粉もの料理や豚肉・羊肉を用いた料理がよく食べられる。	中国北部の華北地方は、南部に比べて降水量が少なく乾燥しているため、水田稲作よりも小麦やコウリヤンなどの畑作が適しています。そのため、小麦粉を練って作る水餃子や麺類が主食として発達しました。また、内陸寄りであることから海産物よりも豚肉や羊肉が使われることが多く、寒い冬に備えて塩分を多く含んだ濃い味付けが好まれる傾向にあります。
問2	<b>答え 1</b> IT産業は比較的新しい産業であるため、カースト制度などの伝統的な身分制度による職業選択の制約を直接受けにくかった。	インドには「カースト制度」と呼ばれる伝統的な身分制度が根強く残っており、かつては家系や身分によって就ける職業が厳しく制限されていました。しかし、20世紀後半から急速に発展したIT産業は、既存の身分制度の枠組みに含まれない「新しい産業」であったため、低い身分とされる人々や中産階級の人々にとっても、実力次第で高収入を得られる新たなチャンスとして受け入れられました。これが優秀な人材の流入を促し、産業発展の大きな原動力となりました。
問3	<b>答え 1</b> 単位面積あたりの生産力が高く、人口が多い地域の主食として適している。	米は小麦など他の穀物と比較して、同じ面積の土地から収穫できる量（土地生産性）が多く、多くの人口を養うことができる農作物です。そのため、古くから人口が密集してきたアジアのモンスーン地域において、主食として広く普及しました。また、生産された国の中で消費される割合が高いことも特徴の一つです。
問4	<b>答え 1</b> 一人っ子政策	中国では1949年の建国以降、公衆衛生の改善などにより人口が急増しました。これによる食料不足や資源の枯渇を懸念した政府が、1979年から法的・行政的な手段を用いて人口増加を強力に抑制するために導入した仕組みです。現在は、この政策がもたらした少子高齢化への対応として、子どもの数に関する制限は緩和・撤廃されています。
問5	<b>答え 1</b> 中国での人件費の上昇を受け、リスク分散のために生産拠点を他の国へも広げる動きが強まったため	中国では経済発展に伴い労働賃金が上昇しており、製造コストの増大が課題となっています。そのため、日本企業は生産拠点を中国一極に集中させるのではなく、賃金が比較的安く成長著しいベトナムなどへ分散させる「チャイナ・プラス・ワン」という戦略をとっています。これがベトナムにおける拠点数の高い増加率につながっています。
問6	<b>答え 1</b> アラブ首長国連邦	アラブ首長国連邦は、ペルシャ湾沿岸に位置する西アジアの産油国です。日本にとって極めて重要なエネルギー資源の供給源となっており、輸出品目のほとんどが原油や液化天然ガス（LNG）といったエネルギー資源で占められているのが特徴です。サウジアラビアも産油国ですが、提示された統計データはこの国特有の輸出比率を示しています。
問7	<b>答え 1</b> 夏にインド洋から陸地へ向かって吹く季節風が雨をもたらす、ガンジス川流域で稲作が行われる。	南アジアの農業は季節風（モンスーン）に大きく依存しています。夏は海（インド洋）から陸（ヒマラヤ山脈方面）に向かって湿った風が吹くため、ヒマラヤ山脈に近いガンジス川流域では多量の雨が降り、高温多湿を好む米の栽培に適した環境となります。冬は逆に陸から海に向かって乾燥した風が吹くため、降水量は減少します。
問8	<b>答え 1</b> インド	南アジア最大の面積と人口を持つインドは、1990年代以降の経済自由化やICT（情報通信技術）産業の発展により、国全体の経済規模（GDP）が急速に拡大しました。しかし、14億人を超える膨大な人口を抱えているため、1人あたりの国内総生産で見ると、依然として成長の余地がある段階にあります。ブラジルは南米、コートジボワールはアフリカの国であり、地理的条件や経済規模が異なります。